

## 読売新聞 きょう（10月3日）のイチ押し

### 1面・社会面 緊急事態解除後、初の週末

緊急事態宣言が全面解除されてから最初の週末を迎え、街には早速にぎわいが戻りました。宣言中の1か月前の土曜日（9月4日）と比べ、人出は大阪・梅田で22%増え、ミナミで17%、京都・四条河原町で23%、それぞれ増加していました。

- ★ 大阪・ミナミのグリコの看板前では、記念撮影する観光客らが目立ちました。宣言中は売り上げが以前の1割程度になったという、近くの土産物店でも、店員が『旅行しても大丈夫』という雰囲気は少しずつ出てきた。早く以前のような人出が戻ってほしい」と話していました。
- ★ ただ、ワクチン接種を終えても感染する「ブレイクスルー感染」の可能性もあり、なお注意が必要です。観光客を受け入れる自治体や施設は従業員らのワクチン接種を進めるなど感染防止と集客の両立に心を砕いていますが、マスク着用など基本的な感染対策は欠かせません。

### 社会面 立ちこぎボード 事故急増

水上スポーツ「スタンドアップパドルボード」(SUP)の事故が急増しています。密を避けて楽しめるスポーツとして人気が高まっていますが、沖に流される事故が多発しています。先月には福井県で漁船に巻き込まれて死亡する事故も起きていて、海上保安庁は注意を呼びかけています。

サーフィンの板に似たボードに立って、パドルで水面をこいで進むスポーツです。初心者でも手軽に楽しめることから愛好者は増え、2020年度の体験人口は推計約50万人と、この5年で5倍になっています。

一方で、漁業関係者からは漁船との接触を危ぶむ声も多くなっていて、一部でルール作りの検討も始まっているようです。

### 他紙と比べて

日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」の特別紙面では、最澄が広めた天台宗の歩みと、60年ぶりの大改修が進む比叡山延暦寺の国宝「根本中堂」、特別展「最澄と天台宗のすべて」を紹介しています。1200年あまり受け継がれてきた「不滅の法灯」の厳かなカラー写真を、1ページを使って掲載しているのが目を引きます。